

会派視察報告

政友クラブ

代表：山本みゆき

二條 孝夫

大竹真千子

中村 直人

西澤 和保

期間：令和6年3月25日（月）から26日（火）まで（2日間）

査察地及び視察事項

- （1）東京都北区：味の素ナショナルトレーニングセンター
国民スポーツ大会開催地として、スポーツ振興および、スポーツを通じた健康維持の施策などの調査
- （2）東京都千代田区：国会議事堂・衆議院第1議員会館
松本糸魚川連絡道路の建設、大町病院について陳情提出。山岳観光についての勉強会
- （3）東京都台東区：国立西洋美術館
国際芸術祭開催に向けた現代美術展の視察



(1) 味の素ナショナルトレーニングセンター

日時：令和6年3月25日（月） 13時30分から15時30分

・施設の概要

住所：東京都北区西が丘3-12-22

敷地面積：14,696 m²

日本におけるスポーツのトップレベル競技者の国際競技力を総合的に向上させることを目的として、2000年（平成12年）に告示された「スポーツ振興基本計画」に基づき設置されたトレーニング施設。

・視察の意図

市のスポーツ振興および、スポーツを通じた健康維持の施策等の参考とするため。また、本市出身の女子バドミントン、オリンピック出場選手である、奥原希望選手の在籍したトレーニング施設であることから視察を行った。

所感：

(山本みゆき)

世界を舞台に活躍するアスリートのトレーニングやスポーツ医・科学、情報等による研究・支援の拠点を視察しました。

スポーツ選手育成のひとつのまちとして居住施設も併設されており、大町市では令和10年に国民スポーツ大会が予定されていること、また旧北高跡地の活用について大いに参考にすべきと感じました。

(二條孝夫)

トレーニングセンターは、オリンピック、パラリンピック競技の種目に特化して整備され、その規模の大きさに驚かされた。

スポーツ施設としては充実しているのは勿論であるが、各スポーツを科学的に分析し選手育成につなげている。

中学校生からの育成として寮を完備し、オリンピック、パラリンピックに臨む選手を育てている。

こういう施設をすべて大町にというのは望めないが、来たる令和10年に国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会が長野県で行われる。

大町市においては山岳、スポーツクライミング等が開催される。

それに合わせて、施設整備等行う上で非常に参考になった。

また、長寿社会の到来から、いつまでも健康で生活できる環境づくりが大事で、スポーツに重きを置くことの大切さを感じた。

スポーツのまちづくりを行うことは定住対策にもつながっていく。

(大竹真千子)

日本の国際競技力向上のため、トップアスリートが集中的・継続的に強化活動を行うことができるよう設計されただけあって、素晴らしい施設だった。

東京オリンピックが決まったことで開設されることになったと聞いたが、国際舞台で活躍するだけのパフォーマンスを引き出すために、設備、備品、空調、照明などあらゆる状況を考慮して設計がされており、ハイパフォーマンススポーツセンターの名にふさわしい施設となっていた。

教育面の連携も充実し、幼少期からの育成にも対応できる施設となっており、国を挙げて応援する姿勢を感じる施設であった。

視察のアテンドにおいても十分楽しめる形で配慮がされており、各スポーツの最高到達点に関する展示や案内を飽きさせることなく披露される豆知識など、各スポーツへのファンづくりへと繋がるよう配慮がされていたところが素晴らしかった。

同様の施設を当市へ造るという点においては難しいが、ファンづくりのためのアテンド方法や、案内に際し見せ場の作り処などには学ぶところも多かった。

(中村直人)

オリンピックを目指す、学生時代からのスポーツ育成において、近隣の公立学校と協力し、文部両道を目指しているという点が印象に残った。

また、オリンピア育成に大変貢献の大きい施設であるとともに、国内にも整備の無かった、障害をもった競技者が利用できる大型施設であるという説明が印象に残った。

パラリンピックの競技者育成についても力を入れていることが伺われた。

見学者用のスペースと競技者用のスペースは厳密に分けられ、施設の本分である競技者の育成に最大限配慮されていた。

同時に彼らのトレーニングの一部を直接見学者が見れるようになっており、大変貴重な体験となった。

見学者スペースには、様々なオリンピアの記録を実際のスケールでみれる工夫がされていた。

たとえば高跳びの高さや、ウサイン・ボルトの走る速さを体感できる電飾がある廊下などで、記録の偉大さ、人間の身体の可能性について楽しみながら感じられる仕組みがあり、スポーツ振興においても、その”見せ方”が重要となってくるということを感じた。

(西澤和保)

オリンピック・パラリンピックなど、国際的な競技力向上の為にトップレベル競技者専用トレーニング施設として、日本で初の施設である。

競技ごとに専用となるコートや施設を持つだけでなく、専門スタッフの配置はもとより、スポーツに関する情報・科学・医学・選手的能力分析やリハビリなどを行いながらのトレーニングや食事のアドバイスまで、一貫して能力向上などに特化できる環境が整備されており、近年のメダリストの大幅な増加は、この施設の高度な体制によってもたらされていることが想像できる。



(2) 国会議事堂・衆議院第1議員会館

日時：令和6年3月26日（火） 9時20分から13時00分

・施設の概要

住所：東京都千代田区永田町2-2-1

・視察の意図

松本糸魚川連絡道路の建設、大町病院について要望書の提出及び国会の視察。

所感：

(山本みゆき)

衆議院議員第一議員会館にて、衆議院議員中川宏昌氏、衆議院議員務台俊介氏に要望書を提出しました。

松糸道路の早期建設を求める要望書では漸く市内ルートが決定したことを報告し、また地域の活性化には松糸道路の早期着工と完成が必要であることを訴えました。

また、自治体病院に関する要望書では、地域医療における大町総合病院の重要性と、存続への国の支援の必要性を訴えてまいりました。

どちらも国の支援がなくてはならず、地方の現状を国へ伝えていくことの重要性を感じました。

(二條孝夫)

1 松本糸魚川連絡道路の早期建設を求める要望書

政権与党の国会議員に対して直接働きかけることが、早期実現に大きく前進すると感じた。

両氏とも松糸道路については、早期実現するために、国に対して積極的に働きかけているとの事。

地元の熱意を継続的に要望という形で届けることの大事さを感じた。

今後とも機会あるごとに国、県に対して早期実現のため強く働き掛けていく。

2 自治体病院に対する要望書

両氏とも自治体病院の経営については、非常に危惧を持っている。

地域の存在そのものが問われることであり、引き続き病院の安定した経営ができるように国へ要望をしていくとした。

市立大町総合病院は、コロナ禍においては感染症指定病院として、災害時には災害拠点病院として地域の大きな役割を担っている。

病院経営安定に向けての要望をしっかりと行ってきた。

私たちの要望を受けて国につなげていくとの事で、今回の視察で大きな効果があったと思う。

3 登山道整備に関する公的資金導入のための勉強会環境委員会室において務台環境委員長より登山道の今後の在り方について勉強会を行った。

大町市も山岳都市として、上高地に匹敵する環境や山岳景観を持っている。

より多くの人に来ていただくためにも登山道の整備は欠かせない。

登山道の整備や周辺の環境維持に関しては、山小屋関係者や一部のボランティアに支えられている。

しかし、高齢化や施設の老朽化など関係者は非常に苦しんでいる。

また補助金も地方自治体に任されていて、登山道の本格的な整備には程遠い。

こういった状況の中で、国からの公的資金の導入が出来ないか務台委員長から説明を受けた。

登山道とは言ってもあらゆる省庁が管轄、管理している。

登山者も多様なニーズもある。今後、様々な課題を解決すべく、大町市、議員も含めて、国の予算配分が法的に担保される山岳環境基本法的な法律が出来るように後押しをする必要を感じた。

(大竹真千子)

自民党 務台俊介代議士、公明党 中川宏昌代議士へ、松本糸魚川連絡道路の早期建設に向けた陳情と自治体病院への幅広い支援についての陳情を行い、合わせてそれぞれの代議士と情報交換をさせていただいた。

務台代議士とは松糸道路、自治体病院への支援のお話の他に、山小屋運営の課題を共有し、登山道整備を含む今後の支援に向けた情報交換をさせていただいた。中川代議士におかれては、松糸道路の早期建設に関してはもちろんのこと、自治体病院への支援に関しても力強い後押しのお言葉をいただくと共に、能登半島への視察をなさった直後ということもあり、現在の状況、今後の支援体制の情報をいただいた。

松糸道路と自治体病院への支援体制については当市における重要な課題であり、会派として声を届けることは重要な責務であると感じると共に、会派不要論を唱える方々もおられるが、議員が集まり、会派として地方の課題について声を届けるという事の重さについて改めて重要性を感じると共に会派の大切さをしっかりと明言していきたいと感じた。

(中村直人)

中川宏昌議員、務台俊介議員に松糸道路について、また大町病院についての陳情を提出。

両議院ともに、地域の課題について丁寧にお話を聞いていただき、国においてもしっかりと取り組んでいただけるとのことだった。

また、議員から地域発展に対しての提言や、議会での取り組みについてのご意見を頂くこととなった。

特に中川議員からは、ダム観光の一環として、黒部市とのキャニオンルート開通に向け、連携を深めていってほしいとお話があった。

務台議員には、陳情についての他、私から強く当市の山岳観光についての思いを伝えさせていただいた結果、山小屋の公的側面への措置や、登山道の整備についての支援を、しっかりと法的に位置づけていきたいとお話を頂き、急遽勉強会を行うこととなった。

少子高齢化の進む当市であるが、次世代に残せる地域とするため、土木、医療・福祉、観光等、様々な切り口から取り組みが必要であることを強く感じた。

(西澤和保)

1 「地域高規格道路 松本糸魚川連絡道路」早期建設を求める要望書

本年1月13日に市街地地域ルート帯の決定を受けての要望書提出でしたが、両代議員共に、深い理解のもとに早期着工、早期完成の為に関係省庁や部局への要望を強く行っていただいております、ルート帯決定により、今後は国・県・市への要望を一層強化することを確認していただけた。

大北圏域のみならず、日本の主要道路網の一部として、国土交通省も関心を寄せている旨のお話しや、北陸信越エリアの主要幹線道路としての役割もあるとの理解もいただいております、今後も県や国への要望や陳情等を重ね、道路本来の機能の強化と、産業・観光・医療・防災など様々な役割を持つ道路として、地域発展と機能や付加価値を高めるよう、より一層、要望や陳情等の呼びかけが必要とされる中では、地域選出の国会議員への要望は大きな意味を成すものであった。

2 自治体病院に関する要望諸について

新型コロナウイルス感染症の分類の緩和を受け、従来の補助制度などが打ち切りとなった状況で、コロナ期にその負担と役割を大きく担ってきた、市立大町総合病院の重要性と、地域の医療を支える病院としての実態を事細かくお伝えした。

また、高齢化が著しく進む大北圏域にとって、地域の生命線であり、全国の自治体病院の窮状と合せて、存続し続けなければならない使命を負っている旨もお伝えし、手厚い医療への助成や補助をお願いし、ご理解をいただけたが、今後、成果となるよう関係省庁や、機関への要望をしっかりと受け止めていただけるよう、一層の要望や陳情が必要とされる。

1、2いずれの要望書提出も、地方の現状や実態などを提言や要望書などに置き換え直接伝えること重要である。一会派での要望ではあるが、議員・議会・会派としての責務であることを自覚する意味においても意味をなすものであり、今後としては、臆することなく理事者、執行者側との連携なども図り、大町市の将来の為に中央へ足を運ぶことの必然性を・重要性を認識することからも、今後も地域の変遷や情勢変化の折には足を運ぶべきであると考えている。



(3) 国立西洋美術館

日時：令和6年3月26日（水）13時30分から15時30分

施設の概要

住所：東京都台東区上野公園7-7

1959年（昭和34年）に発足・開館した、西洋美術全般を対象とする美術館としては日本で唯一の国立美術館。

・視察の意図

上記のように西洋美術を専ら扱う美術館であるが、初の現代美術を扱った企画展の開催期間だった。令和6年に行われる北アルプス国際芸術祭の開催、そして当市の芸術文化振興の参考とするため、視察を行った。

所感：

(山本みゆき)

開館以来65年にして初めて現代美術の企画展を行っている国立西洋美術館を視察しました。

令和6年9月13日から開催される北アルプス国際芸術祭では、世界中の現代美術の作家が大町市の自然を背景に作品制作を行います。

アーティストが大町市で何を感じ、何を表現していくのかとても楽しみになりました。

普段は歴史的な美術作品を展示する国立西洋美術館が現代美術に取り組む姿勢に大いに興味を持ち、また現代アートの持つ力が未来の大町市の創造に貢献できると感じました。

(二條孝夫)

西洋美術館は、海外での油絵や彫刻等を展示しているが、広い館内の半分のスペースを使って現代アートの企画展を行っていた。現代アート企画展の方へ多くの人が集まっていた。

中々理解しがたい作品もあったが、何とか理解しようと思っているのか、作品の前に大勢の人たちが長時間立ち止まって見いつている光景がとても印象に残った。

現代アートは見る人、見方によってさまざまな考え方を示唆してくれる。

実はこのことが大事だ。その人がどんな見方をしようとそれは尊重されるべきである。

国立であるこの美術館の現代アート企画は大町市の国際芸術祭に向けての追い風になると感じた。

それともう一つ、北アルプス国際芸術祭は、箱の中での現代アート企画展と違い大町市の自然の中に存在し、そこに住む人たちの生活がにじみ出ていると思う。

改めて北アルプス国際芸術祭開催の意義が大きいと感じた。

(大竹真千子)

国立西洋美術館では、どしゃ降りの中でも、多くの来場者がきており、美術に関心を向ける方々の多さに改めて感心した。

西洋美術の作品の展示数、作品に圧倒されたが、今回は『ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？—国立西洋美術館65年目の自問 | 現代美術家たちへの問いかけ—』と題して開催されていた企画展を中心に観覧してきた。

西洋美術館における現代美術との65年に渡る関わりを問うたものであったが、西洋美術の常設展の人気にもひけをとらぬほど、現代美術に対する関心も高かった。

国立の美術館ということもあり、現代美術展という点で、当市の芸術祭に通じるものがあったが、作品の見せ方も工夫が凝らされ、洗練されていたと感じた。

野外、屋内問わず、案内板や、チラシ、ロゴなど関わるものをより洗練されたものとするによりブランド力が、関わるアテンド側の対応等もはやり、合わせて心に残るものだと感じ、国際芸術祭でのアテンド側の対応にも配慮したいと感じた。

(中村直人)

歴史ある西洋美術館において、初の現代美術展を行っているということで、今年度行われる北アルプス国際芸術祭のため、また文化条例を整備へと舵を切った当市の参考とする

ための視察。多くのお客さんがきており、美術の集客力を感じた。特に当市の芸術祭とおなじく、若者や女性のお客さんが多く、当市の観光施策や移住施策として、芸術を活用していくことの効果について考える。

展示については、現代美術の常として社会批評性の強い作品も多かった。

批評の対象として、西洋美術、現在の日本のアートシーン、日雇い労働者の生活、また社会での固定された性的役割等、様々なメッセージがあったが、どれも作品そのもののものもつ力によって、それらを押しつけではなく観客に考えさせるような構成となっていた。

今年度より芸術祭と関連した子供達への教育的な施策も充実させていく。

観光としての美術と考えると、社会批評性の強い作品はリスクとなるという声もあるが、美術を通じて地域や地域社会を考えるという点、教育的な観点を考えると、メッセージを発しながらも、その受け取りや解釈はそれぞれに任される現代美術には、多様な力があるということを再確認した。

(西澤和保)

現代アートのさまざまな作品を見学することができた。

個々のアーティストの創造性や感性などが、制作過程から展示されているものもあり、アーティストの作品への思いと執着がうかがえる。

親しみやすい題材のものもあり、身近なものであっても、我々のとらえ方と違う観点から、その表現手法に感心する作品など、多様な作品が見られた。

本年度開催される「北アルプス2024国際芸術祭」におけるアーティストへの関心度が高まる視察場所であった。